

1・2 / 寺澤さんの父、清一郎さんが建てた家の周りには、50年前に植えられた桜がきれいに咲いています。3・4 / 寺澤さんに共感した仲間が毎年集まり、何十本もの桜を植えてきました。昨年と今年は、新型コロナウイルスの感染予防のため、活動を自粛しました。写真は2007年（平成19年）のものです。



この時期は桜を見ながら、毎日木の状態を確認しています。シカが木の皮をむいたり、野ネズミが幹の周りをかじるのです。昔は野ウサギにもやられました。それからカバネを掛けるようにしたのですが、最初の頃は結構被害を受けましたね。そういう「桜守」が今の私の仕事です。誰かがきちんと管理していかなければ、枯れてしまいます。そうやって育てているから、きれいな桜が咲いたら、やっぱりうれしいんです。こんな寒いところでよく耐えているな、今年もきれいに咲いてくれたなと思いますよ。

1100本以上を植樹

2017年（平成29年）に1000本の植樹を達成しました。枯れたり捕植もしていますから、およそですけど、現在は1100本を超えています。1000本になったとき、もうやめようと思ったのですが、ちょうどその頃に「北海道指導林家」の認定を受けました。指導林家の認定を受けたことで、もう少しやろうという気持ちになったんです。なんか責任を感じ

じて(笑)。一人でコツコツとやってきましたが、喜んでくれる人もいますので、やって良かったなと思っています。継続していくことは大切だなと思いました。

桜の儂はかなさも魅力の一つ

今年は4月28日が開花だったので例年よりも早かったです。だいたい5月2日か3日くらいが開花です。咲いているのは10日間くらいだから、あつという間に散ってしまいます。そういう儂はかなさも魅力の一つなんですよ。桜を見ると、心が安らいで豊かになる。桜は私にとって心のオアシスです。

桜の名所になれば

新ひだか町の桜並木を見て、白糠にも同じような『桜の名所』をつくりたいと思いました。ほど遠いかな(笑)。でも、それが夢です。いつかここが桜の名所になることを夢見て、これからも元気なうちには植樹を続けていきます。今の桜並木が古いもので25年くらい経ったので20年後、30年後にはどうなっているのか、見てみたいな。